

予防接種による疾病予防

今月18日朝、大阪府北部を震源とする最大震度6弱を観測した地震は、これまでに4人の方の死亡が確認され、400人近くの負傷者や200件を超える建物の損壊が報告されています。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

国会は、働き方改革関連法案の審議が参議院厚生労働委員会で行われているなど、政府・与党が成立を目指す重要法案の審議が継続しており、今月20日までの会期を延長することで、与野党間の調整が行われています。

さて、3月中旬、台湾から沖縄本島への旅行客に端を発した麻疹の流行は、沖縄県の99人をはじめ、愛知県、東京都など全国で150人を超える患者が発生しました。沖縄県では今月11日に終息宣言はしたものの、愛知県で新たな感染者が出るなど、今しばらくは注意が必要と思われます。日本において、麻疹は「誰もが一度は若い頃に罹患する感染症」と昔は恐れられていましたが、ワクチンの普及等により、2015年にWHO西大西洋事務局より、麻疹の排除状況になった地域に認定されています。

麻疹ワクチンは、1978年10月から定期接種開始され、2006年度から1歳と小学校入学前の2回接種が実施されています。また、2007年に10代から20代の人に麻疹が大流行したのを受け、2008年度から5年間、中学1年生と高校3年生に2回目の接種を行っています。この結果、1972年から1990年生まれの人には1回の接種しか受けておらず、未罹患の人では十分な免疫力を得ていない可能性もあり、厚生労働省からも追加接種を推奨する通知が発出されているところです。

国際間の人の交流が盛んになる中、今回の麻疹のケースのように、訪日客により感染症が持ち込まれる可能性が心配されます。また、海外渡航者が渡航先で感染して持ち込む可能性も否定できません。日本を訪れる外国人客数は、4月末で1,051万9千人となり、過去最速で累計1千万人を超えたことが、日本政府観光局から公表されました。来年にはラグビーW杯、再来年には東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、訪日外国人の数は一層増加することが予想されます。

5月21日の決算委員会ではインフルエンザを例に挙げ、予防接種の重要性を訴えました。海外からの感染症の流入を防ぐには、検疫態勢を強化する等の水際作戦は重要ですが、完全に防ぐことは不可能です。ワクチンで予防できる疾病はワクチンで防ぐのが基本であると考えます。疾病の予防は国民の健康維持・増進に寄与するとともに、医療費の削減にもつながるものであり、ワクチン接種を拡充して積極的に推奨する政策が必要であると思います。